主な記事
今年の夏は沸とう京　2
連合会本格始動（千歳烏山）　3
初の音楽祭盛況（明大前）　4

Shoten-gai NEWS
# 商店街ニュースN
第1198号
（令和６年）2024年7月5日
（毎月５日発行）
発行所　東京都商店街振興組合連合会
〒104-0061　東京都中央区銀座2-10-18
電　話　03－3542－0231～5
FAX　03－3542－0236
URL　http://www.toshinren.or.jp/
購読料　年間2,500円［送料込み、会費に含む］

## 迫る防災対応 商店街の役割とは

### 都振連調査

東京都商店街振興組合連合会の2024年度商店街活性化推進調査・研究事業がスタートした。

この事業は、年度ごとにテーマを設定し、商店街の活性化や街づくりの観点から地域商業についてのアンケートやヒアリングによる調査と分析を実施するもの。結果を報告書にまとめ、商店街運営の参考資料として公表している。

6月11日に第1回調査研究委員会を開き、今年度のテーマ設定について活発な議論が交わされた。

参考として、23年度の「商店街とDX（デジタルトランスフォーメーション）」、22年度の「商店街のSDGs」、21年度の「商店街でのニューノーマル対応」、20年度の「商店街のキャッシュレス動向」、19年度の「30年後の私の商店街」―の直近5年分のレビューも行われた（各報告書はいずれも都振連ホームページを参照）。

委員長に選出された齊藤得彌・板橋区商店街連合会会長が、「防災」をキーワードに考えてみてはどうか、と提案。他の委員からも、「能登半島地震や、近年の異常気象による豪雨被害等で防災や災害対応への関心が急激に高まってきている」「商店街でできることや、地域住民が商店街に期待することを調査したら」「居住地域によって防災意識に差があるのか、クロス集計することができれば今後の商店街運営の一助となるのではないか」等の意見が出され、『防災や災害時対応に関して、商店街に期待される役割や補完機能』をテーマとすることが決定された。

次回の委員会で調査対象者のスクリーニング方法や、設問内容を決め、8月をめどにアンケート調査を開始する。集計結果を分析し、委員会での議論を経て年内に報告書をまとめる予定だ。

なお、この調査研究委員会の委員は、いずれも都振連の後継者養成研修事業「商店街大学」を修了したメンバーが務めている（写真）。

## 東京都・HTT
# 今年の夏は沸とう京

## 猛暑見込み、複数対策展開へ

小池都知事（手前右端）の正面で報告に耳を傾ける山田理事長＝配信画面

### 熱中症から命を守る行動を！

本格的な夏の到来を前にした5月30日、小池百合子都知事を会長とする第4回「HTT・ゼロエミッション推進協議会」が都庁で開かれた。

都民にも事業者にも「電力をH（へらす）・T（つくる）・T（ためる）」の取り組みを促すもので、経済関係団体などが参加。東京都商店街振興組合連合会から山田昇理事長が出席した。

協議会は、今夏も気温が高い見込みで猛暑の可能性があること、電力需給は予備率3％を上回る見通しであることを報告。その上で今年は特に熱中症対策に力を入れていくとして、暑さを避けるクーリングシェルターの活用や、夏の働き方改革を推進するとした。また、多様な啓発活動で周知を図るとし、「今年の夏は沸とう京　熱中症から命を守る行動を！」とする共同メッセージを発信した。

小池知事は冒頭のあいさつで、異常な暑さが世界各国で記録されていることや国連のグテーレス事務総長が昨年発言した「地球沸騰化時代の到来」に触れ、「熱中症は一つの災害にも匹敵すると捉え、暑さへの認識もアップデートする。命を守るアクションをとってもらえるよう、様々な場面で呼びかけていく」と述べた。

HTTに関しては、支援策の一部を拡充した他、「HTT取組推進宣言企業」と連携した普及啓発を開始。区市町村窓口等でグッズを配布したり、環境イベントに出展するなどして普及に努める。

## クーリングシェルター 都内各所に開設

東京都は以下の施策で今夏の熱中症対策にあたっていく。

身近な場所での対策として進めているのは、都内745施設（6月21日現在）のクーリングシェルターや、都内約900か所の「Tokyowatar Drinking Station」だ。暑さを避け、適宜、水分補給をして予防に努めてほしいとする。

普及啓発活動にも重きを置いていて、このほど協定締結した日本気象協会から、熱中症に関する専門家を区市町村のイベント等に派遣する。タレントの村山輝星（きらり）さんを起用した啓発動画を配信するとともに、テレビCMやサイネージ、ウェブ広告でも展開する。予防行動の数々をイラストで表したポスター（2面参照）の掲示・呼びかけも行う。

首元を冷やすネッククーラーや、うちわといった暑さ対策グッズをイベントなどを通じて配布する。

熱中症警戒アラートの一段上として、この4月から運用が開始された「熱中症特別警戒アラート」についても、発表時には区市町村などへ速やかに伝達する。最高暑さ指数が33以上の場合は、ウェブ・SNSでの周知とともに、高齢者等への注意喚起を図るため、テレビやラジオ等、メディアを通じた情報発信も徹底する。

一方、家庭での対策としては、エアコンの効果的な活用や遮光カーテン、すだれの使用を推奨。ネッククーラーや保冷剤を使うのも良い。HTTの観点から、省エネエアコンへの買い替え検討も促していく。

## 新紙幣発行で どうする券売機

## 「旧札も使用可」呼びかけを

新紙幣が7月3日に発行された。デザインが変わったのは2004年以来、20年ぶり。肖像画は、新1万円札が近代日本経済の父と称される渋沢栄一、新5千円札が津田塾大学の創設者である津田梅子、新千円札が近代日本医学の父と呼ばれる北里柴三郎となった。順次、金融機関やATMなどで入手できる。

新紙幣への対応に頭を悩ませているのが券売機を導入している飲食店だ。入れ替え、もしくはシステム更新が必要となるが、1台あたり数十万円から100万円ほどかかるとされる。負担が大きいことから、旧札を手元に用意して交換に応じ、当面をしのぐ店舗もあるという。

東京都ではこれに対して、今年度の新規事業である「新たな事業環境に即応した経営展開サポート事業」で支援する。対象は、直近決算期で損失計上するなどした都内中小企業。詳しくは、東京都中小企業振興公社経営戦略課へ要問い合わせ（☎03・5816・8730）。区部では葛飾区が制度を設けており、こちらは中小店舗を対象とし、補助率は2分の1（上限30万円）。申請は今月から10月18日まで受け付ける。予算がなくなり次第終了。

券売機の対応を進める一方で、これを機にキャッシュレス化、もしくはレジ会計に戻すという動きもある。商店街関係者によると、来店客とのコミュニケーション不足を解消するため、券売機での事前決済を取り止めてレジ会計へ戻したラーメン店があるなど、新紙幣対応に先んじて〝券売機離れ〟したケースも見られるとのことだ。

なお、旧紙幣は引き続きそのまま使える。警視庁や日本銀行では、詐欺などに十分注意するよう呼びかけている。商店街としても高齢者を中心に注意喚起を図りたい。

## 雨の季節 到来…？

6月21日、気象庁は近畿、東海をはじめ関東地方も梅雨入りしたと見られると発表した。平年より14日、昨年より13日遅く傘が手放せないシーズン到来となった。

今や観光名所にもなった渋谷区の渋谷駅前スクランブル交差点にも傘の連なりが現れた（写真）。

梅雨入りの発表には、大雨による災害の発生しやすい時期を周知する目的もある。

日本気象協会では、梅雨入りが遅れても梅雨明けは平年並みのため、今年は短期集中型となる見通しを発表。そのため、大雨災害への警戒も同時に呼びかけている。

各自の浸水被害への備えが必要だ（3面に関連記事）。

TOSHINREN-information

魅力ある街づくりのためには
“振興組合化”から！

■振興組合設立のためには？
振興組合を設立するためには、発起人が７人以上おり、次の３つの要件を満たすことが必要です
①小売商業、サービス業を営む者が30人以上近接して商店街を形成していること
②他の商店街振興組合の地区と重複しないこと
③その地区内の組合員有資格者の２／３以上が組合員となり、かつ、総組合員の１／２以上が小売商業またはサービス業であること

■振興組合設立のメリットは？
①人的なまとまりが強くなり組織力が強化されます
②組合運営および会計が明確化され新規加入促進につながります
③法律に基づく法人であるため、社会的な信用が高まります
④国や都、区市など行政の助成金や施策が活用できます

詳しくは　東京都商店街振興組合連合会　組織課へお問い合わせください　TEL：03（3542）0231